

【海外拠点】山口銀行釜山支店、山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所

【現地駐在】TTB銀行(タイ・バンコク)、日本政策金融公庫バンコク駐在員事務所(タイ・バンコク)

HD銀行(ベトナム・ホーチミン)、明倫国際法律事務所ホーチミンオフィス(ベトナム・ホーチミン)



## 【大連支店】

### 大連のスーパーマーケットから中国消費動向を探る

#### 1. はじめに

コロナ禍により1年延期となった東京オリンピック・パラリンピックも無事開催されました。無観客や様々な規制等により、いつもとは違う特別な形での開催となりましたが、自宅でテレビやインターネットから日本選手の活躍を見る事が日々の楽しみとなっています。

自宅に一人で過ごす時間が長くなった分、コロナの影響によりしばらく遠ざかっている家族団らんの食卓の味が恋しくなり、大連に赴任後4年目にしようやく我が家の家庭の味を思い出しながら自炊をするようにしました。既に2回目のワクチン接種も終えた事から、マスクやアルコール消毒など屋外での感染対策を万全にした上で、毎週末、食材を調達する為に近所のスーパーや市場等に足を運ぶようにしています。そこでは中国ならではの買い物事情や日本とは異なる場面に遭遇し、改めて駐在しなければ見えてこない当地の発見に醍醐味を感じています。今回はそのような生活体験の中から、昨今の大連のスーパーマーケットで発見した事、気づき等を皆様にご紹介したいと思います。

#### 2. 日本人から見たスーパーマーケットの光景

スマートフォンの普及により食材調達もインターネットや宅配サービスを利用する等デジタル化が進んでいます。近所のスーパーマーケットに立ち寄ると、大連では肉、野菜や果物などは量り売りが一般的となっています。スーパーに限らず、道端でもさくらんぼをはじめ、スイカや野菜の量り売りの光景がごく普通に見られます。

私の日課となっているスーパーマーケットでの買い物をご紹介します。週末に1週間分の食材を購入します。目安は100元~150元(約1,700円~2,550円)でしょうか。日本と同様、カートを手を、買い物カゴを取り、まずは精肉コーナーを目指しますが、大きな肉



精肉コーナーの様子【筆者撮影】

の塊が目に入ります。日本の精肉コーナーでは、トレーとラップで綺麗に精肉が陳列されていますが、中国では精肉の部位ごと無造作に陳列されており、衛生面で少し気になるところはあります。イメージは、精肉コーナーで欲しい分量を注文する際に、冷蔵ケースに陳列された欲しい種類を指さし、「イージン（1斤：500g）」と伝え、その場で捌き手渡してくれます。顔なじみになると、脂身をカットして食べやすい部分だけにしてくれたり、値段を少し負けてくれたりもします。先日購入した豚肉ブロックは黒豚の若干高級な品種ですが500gあたり45元（約765円）でした。

精肉コーナーを通り過ぎると、次は卵売り場です。以前、中国人の方に俗にいう卵かけご飯を食べるという話をした時、眉をしかめられた事がありました。後から聞いた話では、



卵コーナーの様子【筆者撮影】

衛生管理上、生卵は食中毒になりやすいことから食べる習慣があまり無いという事でした。また、陳列台の端には生卵の中身をそのままビニール袋に入れただけのものが並べられている様子を見かけます。殻にヒビが入った等、見た目不良があったものをこのようにして販売しているそうなのですが、1袋に10個分の卵が入って2元（約34円）とかなり安い値段です。また、昨今はすき焼き食べ放題も流行しているようで、日本と同様に生卵を食べる食文化も少しずつ浸透してきているようです。私はいつも卵を購入する時は、安心感のある一番高い種類のものを選ぶのですが、店員の方がその中からさらに新鮮なものを選んで1個ずつパックに詰めてくれます。

購入してまだ1週間足らずのものであれば、卵かけご飯にしても美味しく食べられます。価格は10個入りで12元（約204円）と日本とあまり変わらない水準です。

鮮魚コーナーは料理の腕前にまだ自信が無いことから通り過ぎてしまいましたが、大連は周囲を海に囲まれ、ナマコ等の海産物が有名な地域であることから、新鮮で安い海産物が豊富です。しかし、今年に入りコロナの煽りを受け、大連名物「アワビご飯」で有名な名店も姿を消すなど、美味しい地元の海鮮料理を食べる機会も少なくなりました。

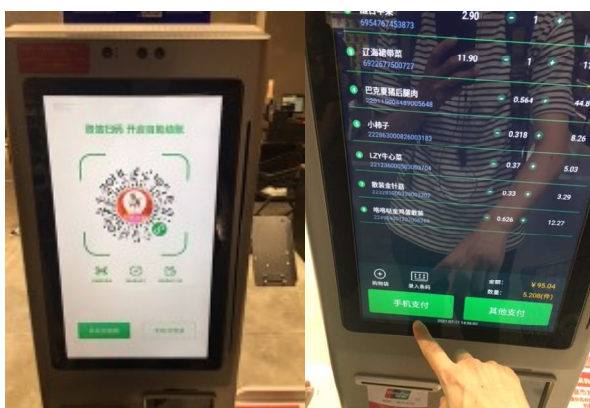
青果コーナーでは、購入したい食材をビニール袋へ入れて、秤の近くにいる店員に手渡すと、店員は重さを量り値札シールを貼ってくれるのが一般的です。有機野菜やあらかじめ調理しやすく枝葉をカットしたものは個別にトレー包装され、値札シールが貼られているものもあります。果物ではドリアンをその場でカットして販売している光景をよく目にします。2018年頃に中国ではドリアンブームが巻



青果コーナーの様子【筆者撮影】

き起こり、その余韻は未だ残っています。別のスーパーマーケットやショッピングセンターでは店舗に入った途端、ドリアンの何とも言えない匂いが鼻に付く事もあり、苦手な私はコロナ禍のマスク着用の習慣に大変助けられています。

次に乳製品、冷凍食品コーナーを見て回った後、調味料・インスタント食品コーナーへ行きます。麺の発祥地である中国だけあって、ラーメンやパスタなど様々な乾麺も目に入ります。この時期は日本の夏が懐かしくなり、そうめんや蕎麦を探すのですが、驚く事に蕎麦はよく見かけるのですが、そうめんはあまり見かけません。日系スーパーに行くと置いていますが、6束（3食分）で30~50元（510~850円）と高価な食材という印象です。大連は親日的な街であることから日本料理店も多く、普通の定食であれば満足する量を食べることができるのですが、そうめん定食を注文すると量が少し物足りないと感じてしまいます。また、カレーのルーも良く使う食材の一つです。中国で販売しているカレーのルーは日本のような茶色ではなく黄色のものが大半です。昔、皇帝のみ身に着ける事が許された色が黄色だったという事もあり、中国の方々にとって赤色と同じく黄色も好まれる色だそうです。先日、茶色いカレーのルーを発見し価格も11元（約187円）とお手頃だったので、即購入しました。日本と中国の合弁企業が現地で製造しているのですが、パッケージには「日式（日本風）」の文字が強調され、材料や作り方も日本語と中国語の2カ国語で表示されています。味も日本で食べるものと大差無く、日本製のルーですと40元（約680円）近くする事から、大変重宝しています。



会計時のセルフレジ【筆者撮影】

会計ではセルフレジの機械も5~6台設置されており、WeChat等によるスマホ決済が浸透している事から、読み取り機にスマホ画面のQRコードをかざす買い物客の姿を多く見かけます。また、レジ袋の有料化も浸透してきており、マイエコバックを持参している方も多く見かけます。

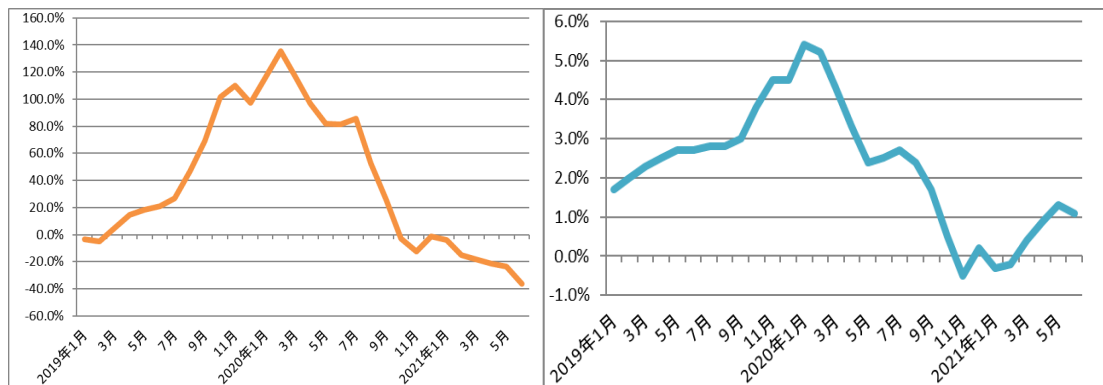
会計ではセルフレジの機械も5~6台設置されており、WeChat等によるスマホ決済が浸透している事から、読み取り機にスマホ画面のQRコードをかざす買い物客の姿を多く見かけます。また、レジ袋の有料

### 3. 豚肉価格と消費者物価指数の関係性

中国では肉の中でも豚肉消費量が圧倒的に多く、次いで鶏肉、牛肉、羊肉という順番となっています。同時に世界の豚肉の約半分は中国が消費しているとも言われる程、今や中国の方々にとっては欠かせない食材です。下の図表の通り、豚肉価格の変動は消費者物価指数の変動とほぼ同じ動きをしています。過去に豚コレラが流行するなどして豚肉価格が高騰し、消費者物価指数を3%も押し上げた事も大きな社会問題となりました。まさに豚肉価格の動向が消費全体に影響を与えると云っても過言ではありません。

【図表 1 中国豚肉価格の前年比伸び率】

【図表 2 中国消費者物価指数の前年比伸び率】



※中国国家统计局データを基に作成

また、このような背景もあり、食糧に対する危機意識も高まっており、今年 4 月に開催された全国人民代表大会では「食べ残し禁止法」が可決され、料理を注文しすぎた客に店側が処分費用を請求することが可能となり、逆に大量に注文させた場合には罰金を科されるようになりました。同時に健康志向の高まりや環境問題への関心から植物性タンパク質などから作る代替肉等を取り扱うスタートアップ企業も注目を集めています。中国における代替肉の市場規模は 2018 年に 100 億ドル以下でしたが、2023 年までにはおよそ 120 億ドルに成長するとも予測されており、食に関しても今後、様々な技術開発や発展が見込まれます。

#### 4. 終わりに

目新しい商品が日々、世の中に出回る中、中国人の方に日本商品で何が欲しいか尋ねると、化粧品や調味料といった声が圧倒的に多いですが、有名な日本商品であればタオバオ等の大手 EC サイトで購入する事ができます。しかし、日本に少し馴染みのある方に同様の質問を尋ねると、まだ中国ではあまり見かけたことがないものという答えが返ってきます。山口銀行大連支店では以前より越境 EC サイト「Eddimall」を推進し、中国ではまだ目にした事のない新しい日本商品を取り扱って参りましたが、今年 6 月 15 日より新しく観光型越境 EC サイト「Eddimall 心動」をスタートさせました。「Eddimall 心動」の特徴は、地方自治体が参加する事で各自治体の地域産品を中国に PR できる「経済振興」と、商品 PR だけでなく、地域の観光動画を配信するなどし、コロナ禍が終息した際には中国の方々にそれら地域に旅行に来ていただく「観光振興」の両面で活用できるプログラムです。スタート時点では、北から順に北海道の富良野市・函館市・増毛町・松前町、山形県の河北町、岡山県の倉敷市、広島県、愛媛県、そして下関市と大連市の友好都市でもある北九州市の 10 の地方自治体が参加しています。山口フィナンシャルグループではコロナ禍の時期だからこそ出来る取り組みをお手伝いできるよう、引続き海外からも情報発信していきたいと思えます。

(山口銀行大連支店 池岡 慶了)



---

【参考文献】

- 中国国家統計局 HP

<http://www.stats.gov.cn>

- TechCrunch Japan 記事

<http://jp.techcrunch.com/2020-07-01-beyond-meat-china-alibaba/>